

# あびこ型「地産地消」推進協議会

会報第27号

2011年11月21日発行

\*\*\* 目次 \*\*\*

- |  |  |
|--|--|
| <p>1. 「あびこ農産物直売所あびこん」のリニューアルオープンについて<br/>           (1)市の考え方について<br/>           (2)新法人の紹介と抱負<br/>           (3)新店長挨拶</p> | <p>3. 「援農ボランティア事業実施基準」の改訂について</p>  |
| <p>2. 各部会の活動紹介 (3事例)</p>   | <p>4. 我孫子市農産物の放射性物質検査について<br/>           5. 東日本大震災被災地ボランティア体験<br/>           6. 今後の行事予定編<br/>           7. 編集後記・各部会委員活動へのお誘い</p> |



発 行 あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 米澤 外喜夫

住 所 270-1155 我孫子市我孫子新田22-4

Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771

E-mail abikochisanchisyoko@sky.plala.or.jp

URL <http://www15.plala.or.jp/ohisan/>



# 1. 「あびこ農産物直売所あびこん」のリニューアルオープンについて

## (1) 今後の市の考え方について

農政課長(兼協議会副会長) 德本 博文

10月8日にあびこ農産物直売所が、「あびこ農産物直売所あびこん」として店内も広くなり“リニューアルオープン”いたしました。経営者も農業者で設立した「農事組合法人あびベジ」になり、更なる、安全・安心で新鮮な我孫子市産農産物の提供とPRの場となることが期待されています。

農事組合法人あびベジが設立されるまでには、深夜に至るまでの会議を繰り返し行い、様々な課題をクリアしてきました。

そして、8月29日に設立総会を迎え、10月8日のリニューアルオープンを無事に迎えられました。これまで市では、直売所を有した農業拠点施設の整備に向けての検証として、消費者の動向や売れ筋の把握を行ってきました。

これからは、農業拠点施設整備に向けた第2次検証として、農業者が主体となった直売所経営について検証を行い、農業拠点施設の整備に繋げていくこととしております。

農業者が主体的に直売所を経営することにより、農業者と消費者の相互理解が深められ、更なる、農業の活性化につながるものと期待をしております。

市としても、農事組合法人あびベジを支援し、共に地産地消を進め、農業拠点施設を早期整備できるよう目指していきます。

あびこ型「地産地消」推進協議会の会員の皆様におかれましても、「あびこ農産物直売所あびこん」をご愛顧いただき、また、「農事組合法人あびベジ」と連携・協力をしていただき、我孫子市の地産地消の推進と農業拠点施設の早期整備ができるようお力添えをいただけますようお願ひいたします。

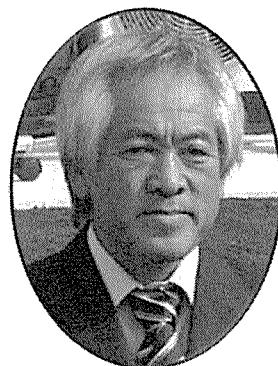
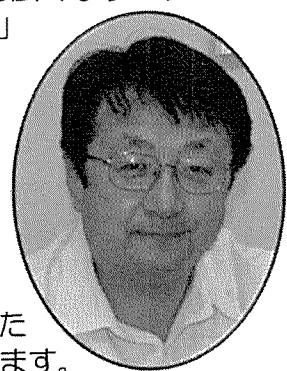
## (2) 新法人の紹介と抱負について

農事組合法人あびベジ 代表理事 中野 栄

皆様ご存じの通り、このたび、あびこ農産物直売所は「あびこん」として再出発いたしました。これまで7年間、協議会の皆様には陰に日向にご協力いただきまして、本当にありがとうございます。今まで目的と同じにしていましたが、公社を仲立ちとした形で、直接の連携は少なかったのではないかと思います。これからは直接農家と協議会が肩を組み、我孫子の地産地消を進めていくことでしょう。

これまで、あゆみの郷・都市建設公社が、権になり農家守ってくれていました。しかし、これからは46人の農家が責任を持ち、直売所運営に当たらなくてはなりません。農家が経営することの是非は議論があったところですが、この大きなうねりを前向きに考え、先に進んでいきたいと思います。

農家と協議会が切望してきた直売所も4年がたち、新たな形で再出発をいたしましたが、これでゴールではありません。農業拠点施設建設に向け、我孫子の農業の未来に向か、これからもご理解ご協力を、よろしくお願ひいたします。



### (3)新店長挨拶

酒井 隆次

平成23年10月1日より、あびこ農産物直売所「あびこん」の新任店長に就任致しました酒井隆次です。私の簡単な略歴は愛知県豊橋市の農家の次男坊です。ある大手企業の営業畑で40年半勤めてきました。今年の6月15日より、あびこ農産物直売所の店長候補として、市農政課の嘱託職員として公募により、採用されました。約3ヶ月半、直売所の現場研修と各農家回りの経験を経て今日に至っております。

新生「あびこん」の大きな意義は、従来の我孫子市あゆみの郷・都市建設公社の運営から、地元農家が運営する農事組合法人「あびベジ」に経営母体が変わったことです。従来の赤字体質の改善を目指して、農家が主体となって経営に乗り出したことです。

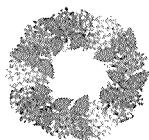
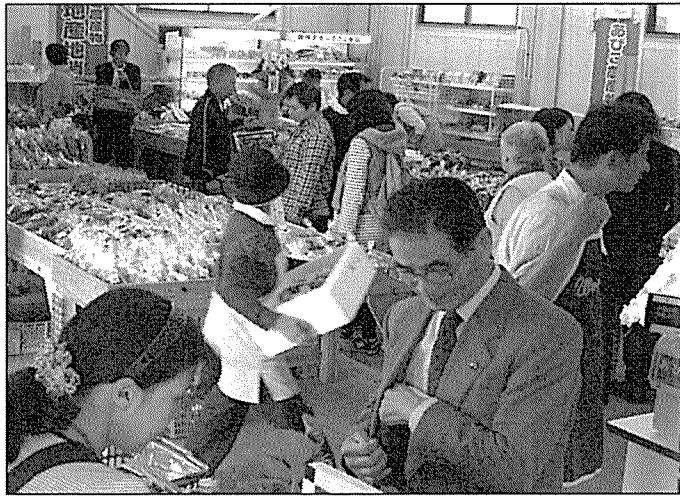
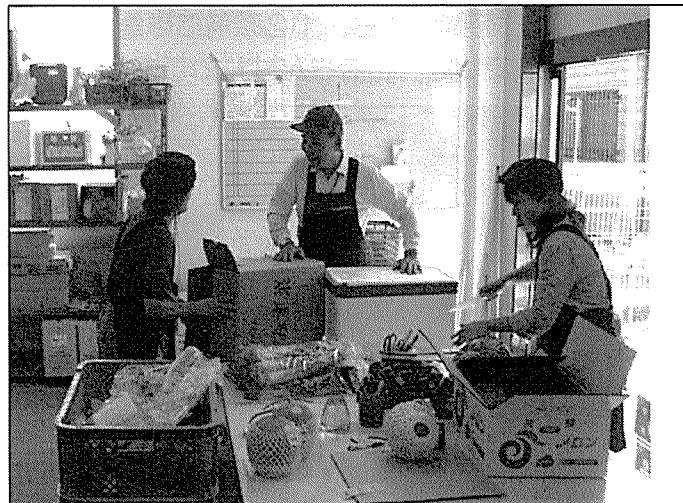
新生「あびこん」は店舗の売り場面積を15平方メートル増加し、配架台は農家さんの手作りです。

10月5日から10月7日の3日間のプレオープンを経て、10月8日から10月9日のリニューアルオープンとして本格オープン致しました。10月5日からのプレオープン3日間の来店者数は約500人弱、10月8日からのリニューアルオープン2日間の来店者数は約1,300人と当初予想を大幅に上回り、好スタートを切ることが出来ました。農家の関係者はじめ関係各位の熱心な支援があったことは言うまでもありません。

これからは消費者が直売所を利用するベスト1、品質・鮮度が良い農産物を扱う直売所を目指し、農業者と消費者の相互理解を更に深める拠点施設の確立を目指して、スタッフ一同、努めていく所存です。

従来の開店時間を1時間早め、年中無休(年末・年始を除く)体制で運営していきます。

今後とも関係各位及び消費者の皆様方に末長いご支援をお願い申し上げます。



祝 リニューアルオープン！

## 2. 各部会の活動紹介

### (1) 採って食べよう！枝豆と新鮮野菜

販路拡大・食育交流部会 ハ澤 静江

7月23日（土）北新田の杉浦農園で販路拡大・食育交流部会主催のイベント“採って食べよう！枝豆と新鮮野菜”が開催されました。子供から年配の方まで一人の欠席者もなく応募者全員が参加されました。当日は、会長、事務局長御夫妻も出席してくださいり、当部会以外の方々のお手伝いも頂き、参加者と共に心地よい汗を流しました。

会場は、炎天の暑さを避けることができるよう畑の中に設置されたゴーヤの蔓が絡んだハウス内。杉浦さんの奥様の達筆で、野菜や肥料の説明書きのほか、畑の風景、かぼちゃの花や大きな実の写真もあちこちに貼ってあり、細やかな配慮・工夫をしていただきました。

空気もおいしく気持ちのいい野外で、まだ土の匂いのする採れたての枝豆がどんどんすすみました。実行委員も忙しく働きながら味見をしたり、つまみ食いをしたりと皆さんと一緒に楽しみました。杉浦さんの息子さんも協力してくださいり、かぼちゃのサラダを作って持って来ていただきました。また、空芯菜（くうしんさい）とベーコンの炒め物を作ってみんなに振る舞われ、子供たちがおかわりをしたのにはびっくり。お母さんたちのレパートリーに加わってくれればいいなと思います。すべて完食！参加者は、お腹も一杯、心も満足して帰られました。

アンケートに寄せられた参加者の感想としては、「もう少しじっくりと野菜を採りたかった。」という指摘はあったものの、「畑の空気も懐かしく、野菜もとても美味しかった。」「子供たちに良い経験をさせることができた。」「意義ある会だった。」など、おおむね好評でした。時間的にも、12時前には終わり、ちょうど良かったと思います。当部会としても満足できるイベントでした。杉浦さんはじめご協力いただいた皆さんに、改めて感謝申し上げます。



### (2) 大根丸ごと料理教室

販路拡大・食育交流部会 古川(こがわ) 恵子

10月27日『大根丸ごと料理教室』を行いました。多くの地域に広めていきたいと思い、今回は湖北台近隣センターにて開催です。入り口に上り旗を立て、皆様をお迎えしました。（湖北、新木地区にお住まいの10名の方が参加）

メニューは①大根飯 ②鶏手羽と大根の煮物 ③大根葉と干蝦(シャーミー)のゴマ油炒め ④簡単大根サラダ(塩昆布入り) ⑤大根とワカメの味噌汁の5品。主役である大根は、青々とした葉っぱ付で、太くみずみずしく、朝一番直売所に入荷された『地元産』です。

今回は、誰でも作れる料理ということもあり、部会女性が講師となり、一品ずつレシピを担当。全体説明の後、各調理台で料理の指導、調理ポイントなど教えながら進めました。「大根飯の作り方を知りたかった。こんなに美味しいとは思いませんでした。」など感想をいただき、作り方では、水加減や出し汁のとり方、味付けの工夫（干蝦、塩昆布）などが参考になったようです。化学調味料は使用せず、煮干、鰹節、昆布で、食材の味を引き出すことの大切さを伝えました。

料理も時間通り出来あがり、器によそってみたところ、皆さん一同に「思った以上に豪華な献立になつたね。」と喜んで頂きました。また、お互い、料理の味見をしたり、出しを取った煮干で佃煮を作ってくれたりと、参加者同士の交流も出来て楽しい講習会となりました。

お料理を美味しくいただいた後、高木副部長より、あびこ型『地産地消』推進協議会の活動、農産物直売所のPR、次回の催しのお知らせ、入会の案内など皆様へお伝えしました。最後に大根のお土産を差し上げ『大根丸ごと料理教室』は無事終了。

当部会は、販路拡大・食育・交流と多くのテーマを担っています。あびこ型『地産・地消』のく安全・安心・新鮮>野菜を広く地域の方、市民の方へ伝えていきたいと思っています。『野菜丸ごと料理教室』は、☆野菜メインの低カロリー料理 ☆栄養バランスが取れた健康料理 ☆無駄の出ないエコ料理として楽しい企画が沢山出来そうです。これからも農家さんには、丸ごと安心して食べられるお野菜を作っていただきたいと願っています。



### ③)第8期援農ボランティア養成講座

援農ボランティア部会 宮本 豊

今年も9月10日の開講式から10月29日の閉講式までの養成講座を行いました。

応募者は17人でした。直前になって2名が辞退され、15人でスタートしましたが、途中で体調不良、日程が合わないなどで3人が辞退され、結局12人と昨年11月からの援農体験者4人も加わり計16人が作業実習を行いました。

応募者そのものが例年よりも少人数でした。団塊の世代が終わったのか、定年退職者は少なく、応募者の年齢幅が広く、「母-娘組」ふた組もあり、女子大生がいるなど、女性が目立っています。ほとんどの応募者が市の広報誌を見て応募されています。

例年なく、天候が不安定で5回目は雨で中止、6回目も雨で急きょ3グループに分かれてハウス内の作業となりました。1回中止となつたため、3回参加で修了する事にし、12人の応募者全員が規定回数をこなしました。畑作業は全くの初めての方、とてもうまい鍼使いをする方とかいろいろでした。

閉講式では16人に米澤会長から修了証書が授与されたあと、「援農ボランティア事業実施基準」、「援農ボランティア心得」、実際の作業に関わる手続きなどの説明を行いました。一部の方は早速、11月から通常の援農活動を開始します。8期の方のご活躍を期待しています。

例年ないハプニング続きの養成講座でしたが、受入農家の荒井さん、鈴木順一さん、染谷さん、古川さん、増田さん、中野さん、農政課の清水さん、ボランティアの萬木さん、山田さん、天谷さん、三宅さんにもお手伝いいただき、怪我もなく無事に終える事が出来ました。

ご協力いただいた関係者に御礼申し上げます。



各部会委員を募集しています。積極的な参加をお願い致します。  
最終頁に広報部会長よりの「お説明」があります。

### 3. 「援農ボランティア事業実施基準」の改訂について

援農ボランティア部会長 宮本 豊

平成21年2月の改訂以来、ボランティア、受入農家も増えるなど、当実施基準が現状に合わなくなっていました。今回の改訂の主な追加項目は、①援農ボランティア養成講座、②援農体験制度。

変更箇所は①援農の実施日及び時間帯(日曜日を追加)、②作業内容(水田作業など今までにない作業)、③キャンセル等の変更連絡(『直接』を追加)、④受入農家の実績報告(飛び入りなどの人数を加算)、⑤相互信頼(『本「基準」外の活動』を追加)、⑥災害補償(詳しく記述)、⑦受入農家の心構え(実費弁償、臨時募集、期限厳守などを追加)。

全体的には、①各項目名を実態に合わせました、②各項目をわかりやすく記述しました、③当実施基準の書類名を実際の書類名と同じにしました。

10月11日の運営会議でのいろいろな意見も反映し、追記、変更し10月29日養成講座閉講式後の8期ボランティアへの配布を手始めに、全ボランティアおよび受け入れ農家にも配布しました。

### 4. 我孫子市農産物の放射性物質検査について

我孫子市環境経済部農政課

去る3月11日に起きた東日本大震災では、広範囲において震災・津波による大規模な被害があり、当市においても液状化など甚大な被害を受け被災地となっております。更に、津波により東京電力株式会社福島第一原子力発電所が被害を受け、広範囲に放射性物質が飛来する事態が発生しました。

この原子力発電所事故により、当市においても空間放射線量や農産物への放射性物質の影響が懸念されている状況です。

市では、今まで、国や千葉県が計画的に実施してきた農産物の放射性物質検査と市が9月末に導入した簡易型放射性物質分析機器により、市産農産物の安全性の確保に努めているところです。

現在までの検査結果では、原木しいたけ（露地栽培）から国が定めた暫定規制値を超えており、国の原子力災害対策本部長から当該しいたけに対し出荷制限指示が出されています。他の農産物の検査結果は、検出せず又は、暫定規制値以下となっており、安全性が確認されています。（別表参照）

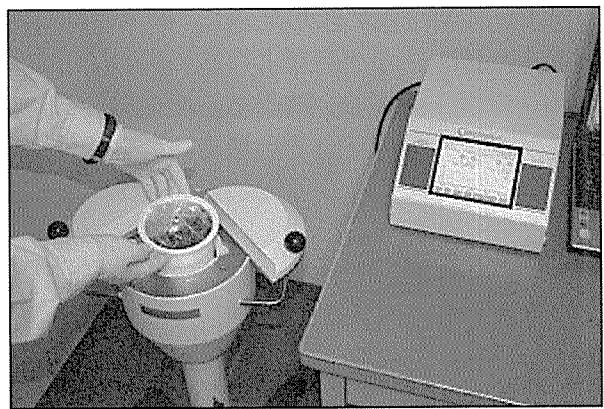
今後も市では、国や県が実施する検査と市独自で行う検査により、我孫子市産農産物の安全性を確認し、皆様に広報あびこや市のホームページで消費者と農業者に検査結果を公表していくことで、安心して我孫子市産農産物を召し上がっていただきたいと考えています。

皆さんにおかれましても、風評に惑わされず冷静な対応をお願いします。

別表1 (国、県の野菜類検査結果)

(単位：ベクレル/kg)

採取日	品目	栽培状況	放射性ヨウ素131	放射性セシウム134と137の合計
2011/10/5	かぶ	露地	検出せず	検出せず
2011/9/28	ほうれん草	露地	検出せず	検出せず
2011/9/26	原木しいたけ	露地	不検出	1,955
2011/7/20	ねぎ	露地	検出せず	検出せず
2011/7/20	えだまめ	露地	検出せず	検出せず
2011/6/16	にんじん	露地	検出せず	検出せず
2011/5/3	こまつな	露地	5.8	103.1



我孫子市で導入した簡易型放射性物質分析機器

※下線は暫定規制値を超えたもの  
注1) ベクレル：放射能の強さを表す単位で、(1秒間)内に原子核が崩壊する数を表す。  
注2) 「検出せず単位時間」および「不検出」とは、定量下限値未満であることを示す。  
なお、定量下限値は以下のとおり  
放射性ヨウ素 131 : 20 ベクレル/kg  
放射性セシウム 134 : 20 ベクレル/kg  
放射性セシウム 137 : 20 ベクレル/kg

## 5. 被災地ボランティア体験記

広報部会 川田 悅代

8月26~27日、宮城県亘理町の苺農家の復興支援ボランティアに参加した。参加者は38名（女性22名）。亘理町は海辺の砂浜を利用した高級苺の栽培が盛んで、かつては浜沿いに苺のハウスが立ち並んでいた。しかし津波で450軒の苺農家は全て被災し、辛うじて残った70軒も農地の汚泥のかき出しや塩害整地に追われた。海岸線から2km内陸を走る常磐自動車道が防波堤となって津波を止めたため、道より浜側は廃墟と瓦礫以外殆ど何もなく、被害の激しさがより際立っていた。懸命な復興作業が続けられた結果、徐々に復興の見通しが立ち、現在では苺苗の管理や、竹藪を開墾して作った代替地で苺の定植用ハウス新設作業も始めている（ハウスの組み立ては主に男性ボランティアが担当）。



苗用のハウスでは、栃木県から寄贈された「とちおとめ」や、現地の高級ブランドの苺苗が遅しく育っていた。私を含む女性ボランティア20名で、苗葉を間引き、余分なランナーを切り、3葉1芯を残す作業を行った。ボランティアの中には農作業は初体験の方もいたが、農家の女性陣による丁寧な指導のおかげで徐々にスピードを上げ、約5時間の作業でハウス1棟半程度を終えた。残った2棟半は翌週以降のボランティアの方へ委ねたが、農家の方々に「これで定植準備に取りかかる。3人では終わらない量なのでとても助かった」と言って頂けて嬉しかった。休憩の時、農家の方が震災の話をして下さった。津波が来る直前に警戒警報が鳴ったが10メートルの津波が来るとは信じられず、ハウスの戸を閉めてから避難したが、翌朝見たらハウスも家も皆無くなっていた事。自分の庭の土で作ったナスやトマトはとても固く、津波で土の質が変わった事を実感した事。意氣消沈して今年の苺の作付けを一時は諦めかけたが、多くの支援・協力を受けて、今年12月の出荷を再び決意した事。代替地の土壤を消毒・施肥し、9月中旬から定植予定だが、電気がなくハウスの温度管理が心配な事など、穏やかな表情で話される一言一言が重く心に刺さり、返す言葉もなかった。復興がなかなか進まず、辛抱や焦りなどの複雑な思いが伝わってきた。それでも前を向いて歩いていく方々の姿を、決して忘れてはいけないと思った。

最初は、復興支援の現地ボランティアというと、とにかく力仕事というイメージを持っていたので「私なんか何の力にもなれないのではないか？かえって邪魔なのでは？」とも思ったが、実際にはボランティアにも様々な種類があり、派遣サイドもニーズに細やかに対応している。私は作物の世話や農地整備の手伝いなら、我孫子の援農で少しばかり経験させて頂いているし、数時間の作業ならバテずに手伝えそうだと思い、実際に手伝う機会を頂けたことが、とてもありがたかった。



余談：バスから見た阿武隈川は本当に美しく、海から津波が逆流した時の事など想像もつかなかった。元の美しい景色を取り戻すために、大勢で懸命に片付けたのだろう。この地で暮らし、また農業をしたいという、地元の人の思いが痛いほど伝わってきた。

## 6. 今後の行事予定

今後の行事予定は以下の通りです。詳細は事務局より別途案内があります。また、スタッフ等の応援要請もありますので宜しくお願ひ致します。

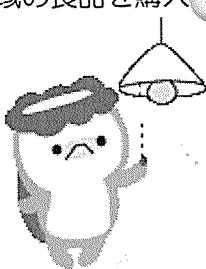
日付	行事内容	会場	主催・協力部会
11月19日(土)	農業まつり	農産物直売所	販路拡大・食育交流部会
11月26日(土) 27日(日)	新そばまつり	農産物直売所 特設テント	販路拡大・食育交流部会
12月3日(土)	援農ボランティア 年末情報交換会	天王台 「やまびこ」	援農ボランティア部会
12月10日(土)	漬物教室	農産物直売所 特設テント	販路拡大・食育交流部会
1月14日(土)	ちびっ子餅つき大会	農産物直売所	当協議会
2月4日(土)	味噌づくり教室	農産物直売所 特設テント	販路拡大・食育交流部会
2月11日(土) 12日(日)	消費生活展 ※当協議会テーマ ：大震災その時頼れる 「地産地消」	市民プラザ	消費生活展 実行委員会 主催 広報部会

## 7. 編集後記

広報部会 平野 善史

3月11日の東日本大震災から早いものでハヶ月が経過しましたが、未だに3,600名近くの方が行方不明となっています。復旧・復興も遅々として進まず、また、原発事故の風評被害等もあり、被災された方々はこれから厳しい冬を迎えようとしています。最近では原発事故による放射性物質の影響について関心が高まっています。私達の住む我孫子市も原木シイタケから放射性物質が検出されましたし、柏市根戸で異常に高い放射性物質が道路側溝より検出されています。農家の皆さんには栽培・収穫した農産物について非常に神経を使っていることと思います。また、小さい子供さんのいる家庭では子供さんへの影響を考えて地場産品の購入を控え、より安全性を求めて、放射性物質の影響を受けていない地域の食品を購入していることも事実です。本号で農政課より「我孫子市農産物の放射性物質検査について」を寄稿して頂きましたが、行政側も「食の安心・安全」について対応しています。

私達は援農ボランティアとして地元の農家さんとの交流があります。今私達が出来ることは、当協議会の設立の趣旨である「行政・生産農家・消費者」三位一体のあびこ型「地産地消」を確実に推進することにより、「安心・安全・新鮮」な農産物を提供することであり、積極的に安全性をPRして「地産地消」・「千産千消」を広めていくことではないでしょうか。



### 各部会委員活動へのお誘い

広報部会長 天谷 幸生

当協議会には次の6つの部会があり、原則月1回の定例会を開きそれぞれ運営を続けております。  
①工コ農産物普及推進部会(部会長含め2名)、②販路拡大・食育交流部会(同6名)、③援農ボランティア部会(同5名)、④学校給食支援部会(同7名)、⑤広報部会(同4名)、⑥総務部会(同2名)

当協議会の拡大に伴い各部会の活動も多様となり多くの検討課題を抱える状況です。つきましては会員方々の部会委員活動へのご参加を是非ともお願ひいたします。各部会の活動現況は当協議会ホームページ(1ページ参照)をご覧になり、ご質問については事務局までお問い合わせください。